

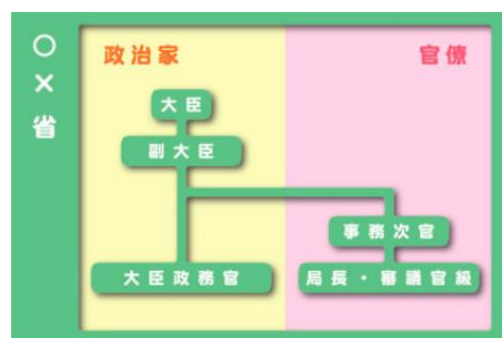
日本臨床工学技士連盟が創設されました

日本臨床工学技士連盟 理事長
肥田泰幸

平成 25 年 7 月 1 日、総務大臣および東京都選挙管理委員会へ提出した政治団体設立届が受理され、日本臨床工学技士連盟が創設されました。本連盟は日本臨床工学技士会と共に臨床工学技士教育制度の改正、臨床工学技士業務の適正化及び労働環境、地位の向上などの法制度の改正や、新たな整備に関する要望を提言する活動を目的としています。創設の趣意や現状、今後の活動方針についてご説明させていただきます。

●なぜ連盟が必要か？

臨床工学技士に係わる法制度の改正や整備はすべて国会において決定されます。各省庁は政治家と官僚の2系統で構成されており、一方から請願を行い法案として国会へ届けるには片手落ちの状態となります。一方、日本臨床工学技士会は公益団体であるが故、特定の候補者を支援する政治活動を行うことはできません。このため、医師会や看護協会、薬剤師会、検査技師会、放射線技師会、理学療法士会など他の医療関係職種団体は各々連盟を組織して、公益団体と同じ目的でありながら政治活動を峻別(区別)して活動を行っています。日本臨床工学技士会の政策提言である施策、制度、そして法律の実現を目的とした政治活動を行う日本臨床工学技士連盟は不可欠の存在であり、現在まで政治活動が行われていなかったことが、他の医療職種に比べ、遅れを取っている現状につながっていることも否めません。



日本臨床工学技士連盟では3つの政策提言を掲げて活動を行っています。

1. **質の向上**: 厚生労働省内に臨床工学技士の育成に関する検討会(仮称)を設置
 2. **数の確保**: 臨床工学技士の需給を考慮した適正配置
 3. **意欲の担保**: 臨床工学技士業務を適正に評価した技術料を診療報酬に掲載
- 大前提として、国民の方々が健やかで安心して、品質の高い医療を享受されるための方針です。

●政治は敬遠される？

「政治」という言葉を聞いただけで、蔑んだり、卑しいイメージを抱かれる方も少なくありません。過去の歴史ではそういった事実も数々ありますし、マスメディアが植え付けたイメージも印象を悪くしている気がします。当会は比較的若い会員の方が多いので政治に直接関わったり、恩恵を感じた方も少ないかもしれませんが、7月に連盟が創設されてからこれまでの活動においても、そのイメージが大きな弊害となっており、払拭するにはかなりの力を要しているのが現状です。

しかし、このまま敬遠を続けていて良いのでしょうか？

●職能団体としての存在意義

日本臨床工学技士会は職能団体です。大辞林より(職能団体とは、法律や医療などの専門的資格を持つ専門職従事者らが、自己の専門性の維持・向上や、専門職としての待遇や利益を保持・改善するための組織である。同時に、研究発表会、講演会、親睦会の開催や、会報、広報誌などの発行を通して、会員同士の交流などの役目も果たす機関でもある。)とあります。権利だけを主張しているのではなく、専門職としてより存在意義を高める活動こそが技士会活動なのです。他の医療職種も積極的に活動をされており、遅れを取ることは医療における臨床工学技士の存在意義の低下につながると危惧します。

●ここまでの会員数

都道府県毎の連盟会員数をホームページに掲載しています。

<http://www.ce-renmei.gr.jp/kazu.jpg>

連盟は日本臨床工学技士会と活動目的は同じであり、政治活動だけを峻別した団体です。従って会長を始めとする常任理事も既に連盟の会員です。個人の意志で会員になることについて制限は全くありません。公務員であっても同じです。

●今後の活動方針

発足から多方面で啓発活動を行っておりますが、未だ連盟の存在すらご存知のない会員も少なくありません。まずは、連盟の存在と必要性を身近な臨床工学技士に伝えていくことをお願いいたします。日本臨床工学技士会の会員数に対する連盟への入会率はわずか数%です。例え臨床工学技士へ理解のある政治家とつながりを持ったとしても、共闘体制を整えるにはあまりにも力不足です。これは本家である日本臨床工学技士会の活動でも同じことが言えます。毎年実施される「臨床工学技士に関する実態調査」アンケートの回収率は、半分にも満たない大変残念な結果で、厚労省へ提出する資料としては脆弱なものと言わざるを得ません。会員の意識を啓発するだけではなく、同時に発信する側の問題点も改善して、良い結果が得られるよう努めなければならないと思っています。

以上、日本臨床工学技士連盟についてご説明させていただきました。我々日本臨床工学技士連盟は臨床工学技士一人一人の労働環境や待遇の改善、業務意欲の向上を目指し、結果として日本の医療に貢献できるよう活動を行ってまいります。

詳しくはホームページ URL: <http://www.ce-renmei.gr.jp/>をご参照ください。